

『ほらおっさん、  
顔見られながら手コキされんのが  
好きなんだろー？  
願い叶ってんじゃん  
まだまだ射精んだろ？』

『あああいやっ  
もうっ……8発目ですっ  
も、もう射精ないっです……っ！』

『嘘つくんじゃねーよ  
ちんこほちゃんと勃ってんぞ  
きんたまの中からっぽんなるまで  
絞り尽くしてやっから  
ほらだせだせっ』

『あっああああああっ！』



『ほあああつっ  
イグッ!!イグううう  
もう射精ないって言ってるのにっ  
また射精るううううっつ!!』

『ほいー♥  
8発目え♥  
ほーらおちんちん  
気持ちいいねえー♥』



『ほれほれほれほれほれえ♡  
まだでんだるー？♡  
15回目ぐらいから潮しか吹いてねえぞ、  
腰ガクガクさせて♡ 試験官なら  
もう10発ぐらい余裕っしょ♡』



『大鳳うずら、最終試験通過、か』

『ふむ』

『なるほど』

『この歳で  
子供がいるのか』

『おい、誰でもいい  
大鳳うずらの  
過去のデータを  
集める』

『いい情報を持ってきたものには  
一目つきっきりで世話をしてやる』

『ぐおおおおおー!!』



『せ、先生……っ!!  
だ、だめですっ!  
あたし……っこんなつもりじゃ……っ』

『そ、それは……っ』

『いいだる大鳳っ  
お前も望んでたんだろっ?』

『それに、もうみんな帰ったし  
ここには誰もこない』

『そ、そういう問題じゃ  
ないです先生え……っ』

『大鳳っ、俺、お前のことが  
好きなんだよ、もう我慢の限界なんだ、大鳳っ!!』

『いいよな?』

「ん」



『あああああつ  
はいったいはいったい大鳳っ!!』

『はいっ♡は……っ♡  
せんせつあたしっ嬉しいっ♡』

『ああ、俺も嬉しいよ大鳳っ!  
気持ちよすぎて腰がとまらねえ!!  
このまま一回出すぞっ!!』

『せんせつ中はっ  
中はだめですっ!!  
赤ちゃんっできちゃうっ!!』

『いいなあ、大鳳っ  
俺の赤ちゃん産んでくれえっ!!』

『そん……っ  
せんせつだめ……っ♡』



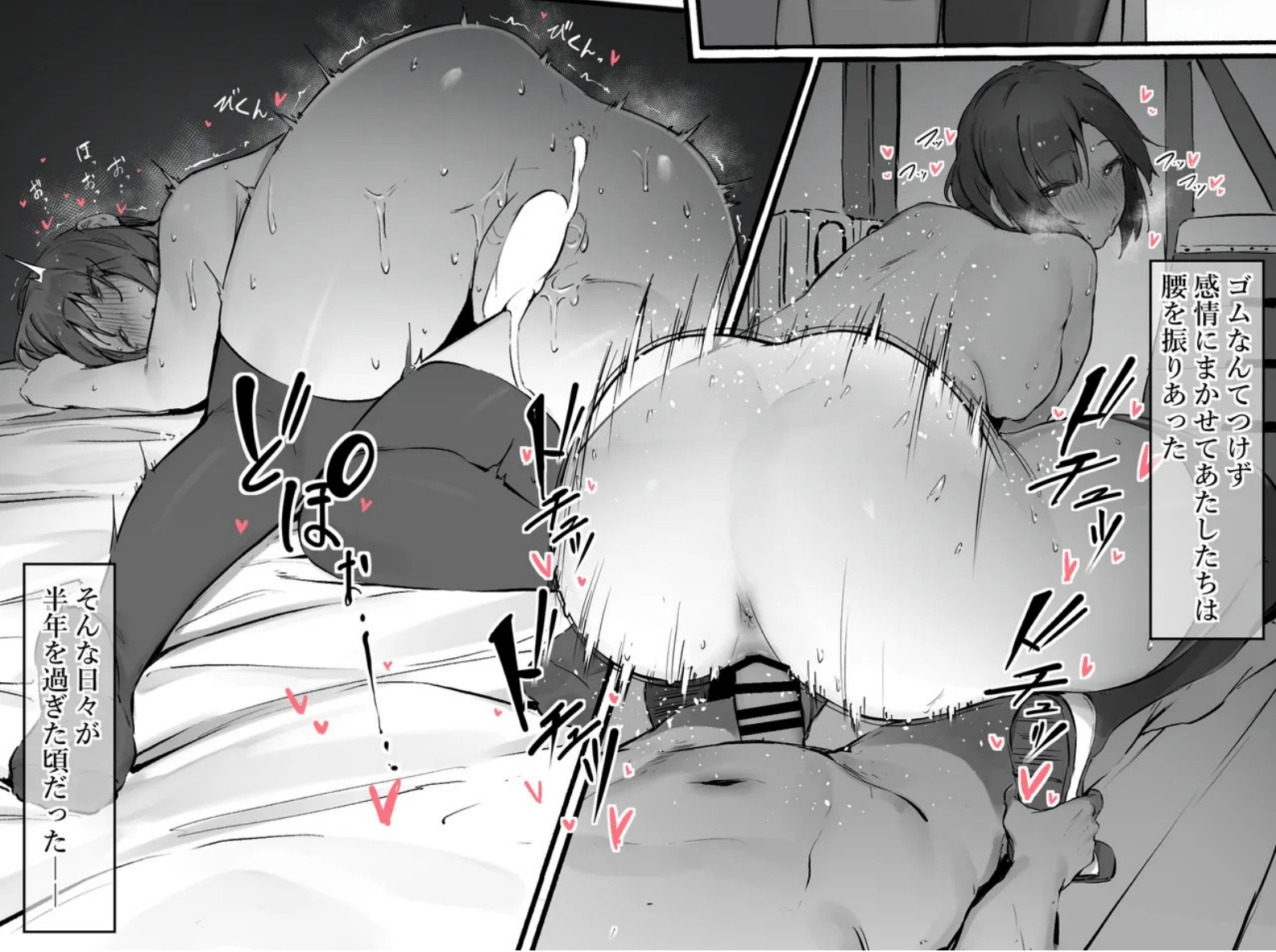
『んほおお  
おおおおっっっっっ♡♡♡♡♡』



男子トイレや  
体育館倉庫……



それからというもの  
あたしと先生は  
場所なんておかまいなくセックスした



ゴムなんてつけず  
感情にまかせてあたしたちは  
腰を振りあった

そんな日々が  
半年を過ぎた頃だった――











